



~13
1505



京傳作
 假君
 本
 鏡
 通油町
 萬十版
 己未春



遠
 1505

世児何言

東嶺様
 の
 雲
 鏡
 之
 胸
 本
 名
 假



假名本胸之鏡

假名本胸之鏡
 義五帝の
 古人の姓名を
 治世を益す
 ありて
 手を
 胸に
 鏡を
 照らし
 心を
 清く
 すると
 世に
 益す



雲一顧君子須
 認印信為眞

醒世老人京傳子



寛政十一年未初春



けんけんがらろのどまきりて
 りんどうーあひこもあち
 がむことばういふうつを
 まやうけんのごとく

破忍之鏡



人のつらさうのつらさう
 二文字のつらさうのつらさう
 けんけんがらろのどまきりて
 りんどうーあひこもあち
 がむことばういふうつを
 まやうけんのごとく

けんけんがらろのどまきりて
 りんどうーあひこもあち
 がむことばういふうつを
 まやうけんのごとく

けんけんがらろのどまきりて
 りんどうーあひこもあち
 がむことばういふうつを
 まやうけんのごとく

るやのくんづいけのあやまり
 とりつるかうぐらちりけりさ
 けつるさささささささささ
 のり小ありといつるこをのこ
 さとへいさのんあか人もあに
 ままをささまらまらまらに
 さまりてそのまをわら
 かまわつてあむべ



てはここのちかへる
 てはここのちかへる
 てはここのちかへる

あらの

送之鏡

三のちかへる
 えまつてはここのちかへる
 あがることかあしね
 まーや







いふはつゝ
 しのぶの
 ちかぢか

なんぞいふか
 いふはつゝ
 わらわのつま子
 かいつかひふのけり
 ける入はまをうけん
 したるこころ

短慮之鏡



我
 心
 あげさ
 こころ
 いふはつゝ
 あんこ
 こころ
 人のさん
 ころあ



泪 泪

いふはつゝ
 わらわの
 かいつかひ
 ける入はま
 したるこころ



くらとまのひ
 いちりといふて
 大物といふ人の
 いかいといふま
 はんのごとく

大
 功
 之
 鏡

くらとまのひ
 いちりといふて
 大物といふ人の
 いかいといふま
 はんのごとく



くらとまのひ
 いちりといふて
 大物といふ人の
 いかいといふま
 はんのごとく

くらとまのひ
 いちりといふて
 大物といふ人の
 いかいといふま
 はんのごとく

くらとまのひ
 いちりといふて
 大物といふ人の
 いかいといふま
 はんのごとく

くらとまのひ
 いちりといふて
 大物といふ人の
 いかいといふま
 はんのごとく

くらとまのひ

くらとまのひ



見んや
天の
あつた
天の
まの
けんの

悪報鏡

あつた
まの
けんの

あつた
まの
けんの
あつた
まの
けんの
あつた
まの
けんの



あつた
まの
けんの



九をよがごういしん
よんがういしん
こふ大いんときまが
かたはふあつうま
不どのあつうのほ
かたはのぬくま
そのぬのあつう
よたこのご
たらまちあつうの
ことあつうその
まふありあつ
しんがういしん

あつういしん
しんがういしん
あつういしん
しんがういしん
あつういしん
しんがういしん
あつういしん
しんがういしん
あつういしん
しんがういしん

あつういしん
しんがういしん
あつういしん
しんがういしん
あつういしん
しんがういしん
あつういしん
しんがういしん
あつういしん
しんがういしん



この本山のつは
ひのあつういしん
ひのさつういしん
あつういしん
しんがういしん
あつういしん
しんがういしん
あつういしん
しんがういしん
あつういしん





かみおやのちえをまね
 子にとりかへしおのちえをまね
 これらにまねたおやのちえのまね

わんどうがまねのちえを
 まねひておんちえをまね
 ちえをまねておんちえを
 ちえのまねをまね

親の恩の鏡

おんちえをまねて
 ちえをまねて
 おんちえをまねて

かみおやのちえをまねて
 子にとりかへしおのちえをまね
 これらにまねたおやのちえのまね



かみおやのちえをまねて
 子にとりかへしおのちえをまね
 これらにまねたおやのちえのまね



自らいひて... 天の川や
 まことのすゝめを...
 中のさへ...

ろせが...

義...



人...
 義...
 け...
 義...

大...
 ...

魂

疑

疑

大がらひらちとつけしとて
うらたあふしと大城とて
いとも世の人のあはれとて
あともそのあはれとていり
さけとありけしと

四五因魚

古



あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの

京傳
いかに
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの



